

ふたたびゴデの地へ レントゲンと共に

2000年12月14日再びエチオピアゴデへ行く事になりました。この時は、NPOいのちの医師を含め6名で向かいました。駐日エチオピア大使も同行下さり、ゴデの地も共に行って下さり、レントゲンを無事届ける事が出来たのです。レントゲンはアディスアベバの空港でストップしており、法律により何日間かは出せなかったのですが、運輸通産大臣がご尽力下さり、出せる事になりました。が、当日私達が乗る飛行機に積まれていなかったのです。飛行機に乗る直前でしたので、私達は滑走路でレントゲンを積むまでは飛行機には乗らないと頑張り、やっとレントゲンを乗せることが出来、約束を果たせたのです。ゴデ空港と言いましても草むらですが、出迎えて下さった医師の瞳は輝いていました。何よりも約束を守ってくれたことが一番嬉しかったと涙を流しお礼を言って下さいました。その姿に私も涙し、感動しました。



人間は人間の気持ちによって支えられ、生きていけることをありがたく感じ、気持ちの表現が人を助け、世界を変えていけると実感したのです。そして私は8月に会った子供達を探しました。医師はじめ大人には会えたのですが、子供達は誰一人としていなかったのです。私は、子供達はいないのかと尋ねました。死んでしまったか、どこかへ行ってしまったかという返事に、私は大きな間違いを起こしたように心が空虚になっていったのです。干ばつの地において水も食物もなく飢餓で苦しむ人々にとっての一日は、日本で生きる私達とはまるで違うということを知ってはいても、わかっていないことを思い知らされ、日本に居ても一瞬とて休んではいられない気持ちで生きようようになりました。出会った子供達の笑顔は、いつも私の内にあり、役に立てるように生きようという気持ちは片時も忘れることも離れることもありません。出会った生命は共に在る事をいつも感じています。